



和かつぱ

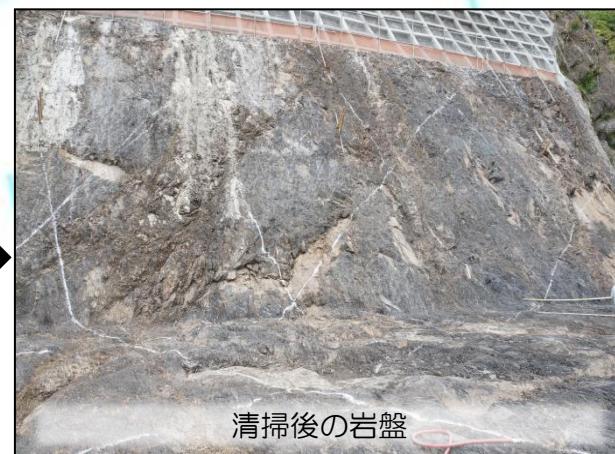
6月になりました。四国地方では、平年より5日早い5月31日ごろに梅雨入りが発表されたようです。これから蒸し暑い日が続きますが、皆さん熱中症には気をつけてお過ごしください。



和食ダム 現在の様子

これまでに引き続き左岸側の再掘削を進めており、6月末時点において標高106mまでが完了しました。

掘削後の岩盤は、中央写真のように高圧洗浄機等を用いて表面に付着している土砂等を水で洗い流します。岩盤清掃は、岩盤の状態を観察・記録するスケッチ（節理面の除去を確実にする目的）を行いやすいようにするために実施しています。

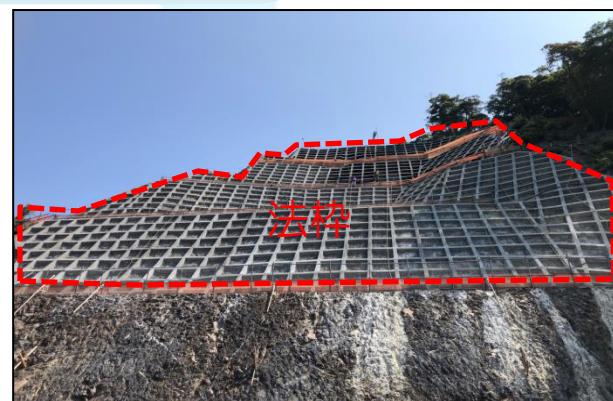


工事情報

法面保護工の施工について

左岸側の掘削完了した斜面には、順次法枠を施工したうえで、雨水による法面の浸食防止や風化の抑制を目的に植生基材吹付（斜面の緑化）を行います。

植生基材吹付工は、法枠の中に植物の種子を散布する工法です。当地区は、温暖・湿潤な気候のためこれに応じた種子を選定しています。和食ダムでは、植物が育ちやすい環境を整えるために、育成の早いヨモギ・メドハギ・バミューダグラス（西洋芝）を導入しています。さらに、景観を整えるためにヤマハギ・コマツナギを導入して、植生を豊かにすることで周辺環境との調和を図ります。





工事情報

新型コロナウイルス感染症予防 のための取り組み



新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐために、工事現場も安全衛生管理に関する対策を実施しています。その取り組みの一部を紹介させていただきたいと思います。

左写真は、始業時の朝礼の様子です。人との間隔を2m以上とることで3密を防止しています。

右写真は、始業時に体温を計測している様子です。体調不良をいち早く察知するために、日々のチェックを義務づけています。さらに、額にレーザーを当てて計測する方式の体温計を用いているので、直接的な接触を防止しています。

ちなみに、県ダム事務所でも、席を2m以上離れた配置にしていますが、決して仲が悪くなったわけではありませんのでご理解のほどよろしくお願いします。



朝礼の様子



体温計測

芸西村の史跡紹介【第25弾】

《八王子宮》

八王子宮の階段は百段あり、自然の割石そのままでも上っても下っても急な石段となっています。祭神は、^{わりし}素戔嗚尊（須佐之男命）の5男3女が祀られています。高知県の郷土誌である「南路志」には、「御神体は壺一つ、天正六年（一五七八）十一月の棟札あり」と書き留められているようです。西分地区には他に、^{やくしどう}薬師堂、^{あみだどう}阿彌陀堂、^{のがみ}野神様など数多くの神社仏堂が大切に保護保存されています。次回は「^{うまとこのしるべいし}馬床の標石」です。

ニホンカモシカ現る！！



6月初めごろ、事務所職員がダムの周辺道路を点検していたところ、斜面に何やら動くものが...。見上げるとなんと「ニホンカモシカ」が斜面を駆け上っている様子を確認！！慌てて車から降りて写真を撮ろうとすると、興味深そうにこちらをじっと見つめていたため、ばっちりカメラ目線での撮影ができました。

ニホンカモシカは、日本のみで生息する固有種で1955年に国の特別天然記念物に指定されています。

ちなみに「シカ」と名付けられていますが、ウシ科に分類されているようです。

